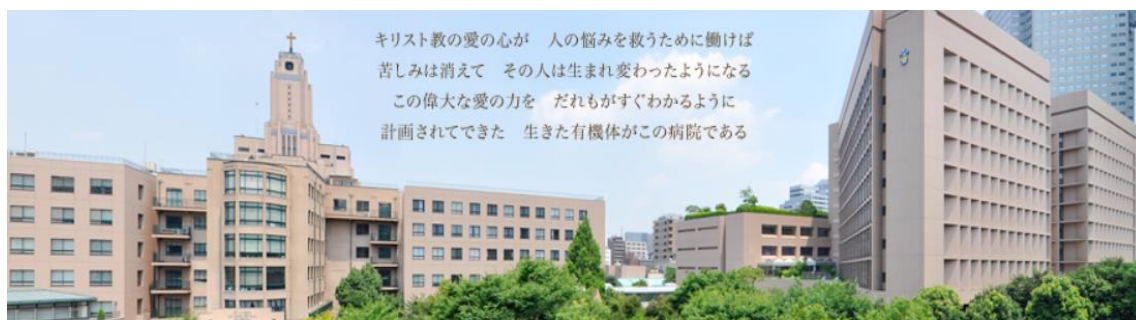


聖路加国際病院

総合診療専門研修プログラム



聖路加国際病院の理念

*This hospital is a living organism
designed to demonstrate
in convincing terms
the transmuting power of Christian love
when applied
in relief of human suffering.
Rudolf B. Teusler(1933)*



2017年9月25日

プログラム責任者

聖路加国際病院一般内科部長 有岡宏子

連絡先：arihiro@luke.ac.jp

1. 専門研修の理念と使命

本プログラムは、基幹施設の聖路加国際病院と4つの連携施設により構成された専門研修施設群において、一貫した研修理念に基づいた総合診療専攻医教育を行います。

その理念、使命は以下の通りです。

今後の日本社会の急速な高齢化等を踏まえると、健康にかかわる問題について適切な初期対応等を行う医師が必要となることから、総合的な診療能力を有する医師の専門性を学術的に評価し、総合診療医は新たな基本診療領域の専門医と位置づけられました。当総合診療専門研修プログラムは以下の3つの理念に基づいて専攻医の教育を行います。

- (1) 総合診療専門医の質の向上を図り、以て、国民の健康・福祉に貢献することを第一の目的とする。
- (2) 地域で活躍する総合診療専門医が、誇りをもって診療等に従事できる専門医資格とする。特に、これから、総合診療専門医資格の取得を目指す若手医師にとって、夢と希望を与える制度となることを目指す。
- (3) 我が国の今後の医療提供体制の構築に資する制度とする。

こうした制度の理念に則って、聖路加国際病院総合診療専門研修プログラム(以下、本研修プログラム)は病院、診療所などで活躍する高い診断・治療能力を持つ総合診療専門医を養成するために、ER型救急や急性期専門各科を有する地域拠点病院のなかで、専門各科と協働し全人的医療を展開しつつ、自らのキャリアパスの形成や地域医療に携わる実力を身につけていくことを目的として創設されました。聖路加国際病院は東京23区のほぼ中央に位置する中央区の中心部に位置し、大規模商業地である銀座と月島、佃といった下町といわれる地域に隣接した地域にある地域拠点病院であり、連携する国立病院機構東埼玉病院は埼玉県蓮田市で長きにわたって神経難病を中心とした疾患の慢性期医療を、豊田地域医療センターはトヨタ自動車の企業城下町である愛知県豊田市の地で、外来、在宅、病棟、地域包括ケアといった一次医療を担ってきました。それぞれの地域に居住する地域住民、各種団体、ボランティアや病院の全職員などの理解と協力のもとで研修できる環境を整えています。

総合診療専攻医は、日常遭遇する疾病と傷害等に対して適切な初期対応と必要に応じた継続的な診療を全人的に提供するとともに、地域のニーズを踏まえた 疾病の予防、介護、看とりなど保健・医療・介護・福祉活動に取り組み、絶えざる自己研鑽を重ねながら、地域で生活する人々の命と健康に関わる幅広い問題について適切に対応する使命を担うものとします。

2. 専門研修の目標

専門研修後の成果 (Outcome)

本プログラムでは、以下を身に付けることを目指します。

1) 地域を支える診療所や病院においては、他の領域別専門医、一般の医師、歯科医師、医療や健康に関わるその他職種等と連携して、地域の保健・医療・介護・福祉等の様々な分野におけるリーダーシップを発揮しつつ、多様な医療サービス(在宅医療、緩和ケア、高齢者ケア、等を含む)を包括的かつ柔軟に提供できる。

2) 総合診療部門を有する病院においては、臓器別でない病棟診療(高齢入院患者や心理・社会・倫理的問題を含む複数の健康問題を抱える患者の包括ケア、癌・非癌患者の緩和ケア等)と臓器別でない外来診療(救急や複数の健康問題をもつ患者への包括的ケア)を提供することができる。

本研修プログラムにおいては指導医が専攻医の教育・指導にあたりますが、専攻医も主体的に学ぶ姿勢をもつことが大切です。総合診療専門医は医師としての倫理観や説明責任はもちろんのこと、プライマリ・ケアの専門家である総合診療医としての専門性を自覚しながら日々の診療にあたると同時に、ワークライフバランスを保ちつつも自己研鑽を欠かさず、日本の医療や総合診療領域の発展に資するべく教育や学術活動に積極的に携わることが求められます。本研修プログラムでの研修後には標準的な医療を安全に提供し、疾病の予防に努めるとともに将来の医療の発展に貢献できる総合診療専門医となります。

3. 専門研修の方法

①臨床現場での学習

職務を通じた学習(On-the-job training)を基盤とし、診療経験から生じる疑問に対してEBMの方法論に則って文献等を通じた知識の収集と批判的吟味を行うプロセスと、総合診療の様々な理論やモデルを踏まえながら経験そのものを省察して能力向上を図るプロセスを両輪とします。その際、学習履歴の記録と自己省察の記録を経験省察研修録(ポートフォリオ:経験と省察のプロセスをファイリングした研修記録)作成という形で全研修課程において実施します。場に応じた教育方略は下記に示します。

●外来医療

経験目標を参考に幅広い経験症例を確保します。外来診察中に指導医への症例提示と教育的フィードバックを受ける外来教育法(プリセプティング)等を実施します。また、指導医による定期的な診療録レビューによる評価、更には、症例カンファレンスを通じた臨床推論や総合

診療の専門的アプローチに関する議論などを通じて、総合診療への理解を深めていきます。また、技能領域については、習熟度に応じた指導を提供します。

●在宅医療

経験目標を参考に幅広い経験症例を確保します。初期は経験ある指導医の診療に同行して診療の枠組みを理解し、次第に独立して訪問診療を提供し経験を積みます。外来医療と同じく、症例カンファレンスを通じて学びを深め、多職種と連携して提供される在宅医療に特徴的な多職種カンファレンスについても積極的に参加し、連携の方法を学びます。

●病棟医療

経験目標を参考に幅広い経験症例を確保します。入院担当患者の症例提示と教育的フィードバックを受ける回診及び多職種を含む病棟カンファレンスを通じて診断・検査・治療・退院支援・地域連携のプロセスに関する理解を深めます。指導医による診療録レビューや手技の学習法は外来と同様です。

●救急医療

経験目標を参考に救急外来や救命救急室等で幅広い経験症例を確保します。外来診療に準じた教育方略となりますが、特に救急においては迅速な判断が求められるため救急特有の意思決定プロセスを重視します。また、救急処置全般については技能領域の教育方略(シミュレーションや直接観察指導等)が必要となり、特に、指導医と共に処置にあたる中から経験を積んでいきます。

●地域ケア

地域医師会の活動を通じて、地域の実地医家と交流することで、地域包括ケアへ参画し、自らの診療を支えるネットワークの形成を図り、日々の診療の基盤とします。さらには産業保健活動、学校保健活動等を学び、それらの活動に参画する。参画した経験を指導医と共に振り返り、その意義や改善点を理解します。

②臨床現場を離れた学習 (各専門医制度において学ぶべき事項)

●総合診療の様々な理論やモデル、組織運営マネジメント、総合診療領域の研究と教育については、関連する学会および団体の学術集会やセミナー、研修会へ参加し、研修カリキュラムの基本的事項を履修します。

●臨床現場で経験数の少ない手技などをシミュレーション機器を活用して学ぶこともできます。聖路加国際病院では2016年度よりシミュレーションセンターを開設し、初期研修医、専攻医の教育に利用できる体制を整えています。

●医療倫理、医療安全、感染対策、保健活動、地域医療活動等については、日本医師会の生涯教育制度や関連する学会の学術集会等を通じて学習を進めます。地域医師会における生涯教育の講演会は、診療に関わる情報を学ぶ場としてのほか、診療上の意見交換等を通じて人格を陶冶する場として活用可能です。

③自己学習 (学習すべき内容を明確にし、学習方法を提示)

●研修カリキュラムにおける経験目標は原則的に自プログラムでの経験を必要としますが、やむを得ず経験を十分に得られない項目については、総合診療領域の各種テキストや Web 教材、更には日本医師会生涯教育制度及び関連のある学会等における e-learning 教材、医療専門雑誌、各学会が作成するガイドライン等を適宜活用しながら、幅広く学習します。

④専門研修中の年度毎の知識・技能・態度の修練プロセス

各学年終了時のゴールの目安を以下に示します。

総合診療専門研修は、卒後3年目からの専門研修3年間で構成されます。

1年次終了時には、患者の情報を過不足なく明確に指導医や関連職種に報告し、健康問題を迅速かつ正確に同定することができるようになることを目標とします。

2年次終了時には、診断や治療プロセスも標準的で患者を取り巻く背景も安定しているような比較的単純な健康問題に対して的確なマネジメントを提供することができるようになることを目標とします。

3年次終了時には、多疾患合併で診断や治療プロセスに困難さがあつたり、患者を取り巻く背景も疾患に影響したりしているような複雑な健康問題に対しても的確なマネジメントを提供することができ、かつ指導できるようになることを目標とします。

また、総合診療専門医は日常遭遇する疾病と傷害等に対する適切な初期対応と必要に応じた継続的な診療を提供するだけでなく、地域のニーズを踏まえた疾病の予防、介護、看とりなど保健・医療・介護・福祉活動に取り組むことが求められますので、18ヶ月以上の総合診療専門研修Ⅰ及びⅡにおいては、後に示す地域ケアの学びを重点的に展開することとなります。

●3年間の研修の修了判定には以下の3つの要件が審査されます。

- 1) 定められたローテート研修を全て履修していること
- 2) 専攻医自身による自己評価と省察の記録、作成した経験省察研修録（ポートフォリオ：経験と省察のプロセスをファイリングした研修記録）を通じて、到達目標がカリキュラムに定められた基準に到達していること

3) 研修手帳に記録された経験目標が全てカリキュラムに定められた基準に到達していること

様々な研修の場において、定められた到達目標と経験目標を常に意識しながら、同じ症候や疾患、更には検査・治療手技を経験する中で、徐々にそのレベルを高めていき、一般的なケースで、自ら判断して対応あるいは実施できることを目指していくこととなります。

4. 専門研修施設と研修内容

本研修プログラムでは、聖路加国際病院一般内科を基幹施設とします。聖路加国際病院は東京都区中央部 二次医療圏の各種専門診療を提供する急性期病院で、総合診療専門研修指導医が常勤しており、一般内科にて初期診療にも対応しています。

本研修プログラムの施設群を構成する専門研修連携施設は以下の3施設です。全て、診療実績基準と所定の施設基準を満たしており、専攻医はこれらの施設群をローテートすることにより、多彩で偏りのない充実した研修を行うことが可能となります。

* 豊田地域医療センター（トヨタ自動車の企業城下町である愛知県豊田市の地で、外来、在宅、病棟、地域包括ケアといった一次医療を担ってきた医療機関である。）

* 国立国際医療研究センター（都心に位置する各種専門診療を提供する急性期病院である。）

* こういち整形外科脳神経内科（地域医療を担う整形外科の診療所である。整形外科の指導医が常駐する。）

※専門研修施設群の構成要件

(1) 総合診療専門研修は診療所・中小病院における総合診療専門研修Iと病院総合診療部門（総合診療科・総合内科等）における総合診療専門研修IIで構成され、それぞれ6ヶ月以上、合計で18ヶ月以上の研修を行います。当プログラムでは連携施設である豊田地域医療センターにて総合診療専門研修Iを12ヶ月、基幹病院の聖路加国際病院で総合診療IIを6ヶ月合計で18ヶ月の研修を行います。

(2) 必須領域別研修として、内科は聖路加国際病院内科で12ヶ月、国立国際医療研究センターにて小児科3ヶ月、聖路加国際病院にて救急科3ヶ月の研修を行います。

(3) その他の領域別研修として、研修目標の達成に必要な範囲で外科・産婦人科・心療内科・皮膚科・耳鼻咽喉科、整形外科などの各科での研修を希望により選択して行います。

施設群における研修の順序、期間等については、専攻医を中心に考え、個々の総合診療専攻医の希望と研修進捗状況、各病院の状況、地域の医療体制を勘案して、本研修プログラム管理委員会が決定します。下記にローテーションの例を示します。

専攻医の1年目は基幹施設である聖路加国際病院での総合診療Ⅱおよび連携施設での総合診療Ⅰを、2年目には聖路加国際病院での内科を1年間ローテートし、3年目には連携施設での総合診療Ⅰ、連携施設での小児科、さらに聖路加国際病院での救急科をローテートします。

《ローテーション例》

1年目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	施設名	聖路加	聖路加	聖路加	聖路加	聖路加	聖路加	連携	連携	連携	連携	連携	連携
	領域	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅱ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ
2年目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	施設名	聖路加	聖路加	聖路加	聖路加	聖路加	聖路加	聖路加	聖路加	聖路加	聖路加	聖路加	聖路加
	領域	内科	内科	内科	内科	内科	内科	内科	内科	内科	内科	内科	内科
3年目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	施設名	連携	連携	連携	連携	連携	連携	連携	連携	連携	聖路加	聖路加	聖路加
	領域	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	総診Ⅰ	小児	小児	小児	救急	救急	救急

※専攻医受入数についての基準 (診療実績、指導医数等による)

本研修プログラムでは一年次 **1名** の専攻医を募集します。

※研究に関する考え方

専門研修プログラムでは、最先端の医学・医療を理解すること及び科学的思考法を体得することが、医師としての幅を広げるため重要です。専攻医は原則として学術活動に携わる必要があります。学術大会等での発表(筆頭に限る)及び論文発表(共同著者を含む)を行うこととします。本研修プログラムでは、聖路加国際大学臨床疫学センターと、さらに将来的には聖路加国際大学公衆衛生大学院(2017年度開設)と共同で臨床研究に携わる機会を提供します。

5. 研修医の採用

病院のホームページに聖路加国際病院 総合診療専門研修プログラムと募集要項を提示し、専門研修プログラム管理委員会が応募者を選考します。

選考方法は、(1) 書類選考 (小論文含む)、(2) SPI 性格適性テスト (応募書類到達後、web 上で施行)、(3) 多人数対応募者の面接 (複数回) です。